

全国保健師長会 栃木県支部だより

発行
全国保健師長会
栃木県支部
令和元年10月1日
第37号



支部長あいさつ

栃木県支部長 高橋 良子 (県西健康福祉センター)

会員みなさまにおかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。今年度から支部長を務めさせていただくことになりました高橋です。役員一同、力を合わせて支部活動を進めて参りたいと思っておりますので、皆様方のご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

さて令和元年5月25日(土)に50名の方々が参加され総会及び研修会が開催されました。研修会では埼玉県から浅井澄代先生をお招きしてご講演いただきました。その中で【統括的役割を担う保健師の心がけたいこと】として、

- ①人間関係を円滑に保つ(特に保健師が所属する他職種の上司)
- ②分散配置をされている保健師への気配り・声かけ
- ③統括保健師としての実績を残す
- ④多様な情報収集と発信
- ⑤部下(後輩)よりも率先して苦勞する(汗をかく)改革を恐れぬ、粘り強く、何事も諦めない
- ⑥「住民のため」というぶれない視点
- ⑦次世代の育成という意識を持つ(-H27年度管理者保健師研修 加藤静子氏-)とありました。

また令和元(2019)年8月12日第2021号週間保健衛生ニュース『ヘルス・アイ』では【統括保健師の熱量】と題し、「統括保健師には、人材育成や災害支援・受援のマネジメント、健康寿命の延伸に向けた地域づくり、誰もが安心して安全に暮らせるまちづくりに貢献できるよう保健師の保健活動をマネジメントする機能が期待されています。」「先輩の大量退職、若手の確保困難、中堅不在の中で生じた技術の伝承への歪みによって、住民の健康を守り抜く活動にしわ寄せが及ばぬよう成長循環を守る体制づくりも重要な役割です(抜粋)」と、統括保健師への期待と役割の重要性について題名以上に熱いエールが掲載されていました。

とはいえ、リーダーやプリセプターとしてあまり自覚することなく、「何となくここまで来た」という思いを持っていらっしゃる方もいるかも知れません。

栃木県支部では、これからも身近なところで会員相互の交流や学びの機会を設け、県内の組織横断的なネットワークがより確かなものとなるよう『保健師のベクトル合わせ』を行いながら、「住民の健康を守り抜く活動」を目指してまいりたいと思います。

〈全国保健師長会加入状況〉

	県(人)	市町(人)	計(人)
平成26年度	51	91	142
平成27年度	51	94	145
平成28年度	51	102	153
平成29年度	49	112	161
平成30年度	47	112	159
令和1年度	44	108	152

※ 皆様のご入会をお待ちしております。

〈令和元年度役員紹介〉

職名	氏名(所属)
支部長	新 高橋良子(県西健康福祉センター)
副支部長	新 金子敬子(健康増進課)
副支部長	継 渡辺良子(鹿沼市役所)
書記	新 鈴木悦子(県西健康福祉センター)
会計	新 生井明美(下野市役所)
監事	継 増淵美樹(宇都宮市役所)
本部広報委員	継 大野みゆき(県北健康福祉センター)
健やか親子特別委員会	継 家入香代(医療政策課)

令和元年度 第1回 全国保健師長会栃木県支部研修会報告

- *日 時 : 令和元年5月25日(土) 14:10~16:30
- *会 場 : とちぎ健康の森 大会議室
- *テーマ : 「地域社会の動向を踏まえた公衆衛生看護の展開
~課題解決と組織管理~」
- *講 師 : 元埼玉県熊谷保健所
埼玉県後期高齢者医療広域連合会 浅井 澄代氏
- *参加者 : 50名(会員 44名, 非会員 6名)
- *内 容 : 今回は、今年3月まで埼玉県の保健師としてご活躍され、保健医療科学院の



「公衆衛生看護研修(管理期)」の講師も務める浅井氏をお迎えし、これまでの経験談にエピソードを加えながら、わかりやすく、時に熱く語っていただきました。

熊谷保健所時代に、保健所における保健師活動指針(H26)や保健師人材育成プログラム(H29)を作成、後に県内市町村での作成に多大な貢献をされました。

本庁の福祉部こども安全課母子保健担当主査時代には、関係団体(母子愛育会)と協働でマタニティマーク作成、また、虐待ハイリスクである未熟児への支援のための「訪問指導マニュアル」を作成し、市町村保健師のスキルアップと指導の平準化を図るとともに、保健所には広域調整や市町村の困難事例への同行支援等を行うなど役割を明確化されました。

保健医療部保健医療政策課 研修・国際協力・免許担当副課長時代には、人材育成は学生時代からと看護系大学(10校)とのコラボや保健活動推進のための人材育成事業を施策化するなど、どこの部署でも精力的に活動された様子はとても印象深いものがありました。

最後に、統括的役割を担う保健師の心得として、「住民のため」というぶれない視点を持つこと、部下(後輩)よりも率先して苦労する(汗をかき)変革を恐れない、粘り強く、何事もあきらめないこと、次世代を育成するという意識を持つこと、などを熱く語られ、私たちにとって今後の実践につながる有意義な研修会になりました。

★ 参加者の声(アンケートから)

- ・PDCAサイクルの実施、データを活用し、根拠に基づく効果的・効率的な保健活動を推進することが重要であることを学ぶことができた。
- ・ご自身のキャリアを図式化したところがとても興味を持ちました。
- ・「つなげ、動かす」ということの意味を、行動レベル(実践)で分かるように話していただき感動しました。
- ・置かれた現状から、分析(課題整理)、先を見通して今何をすべきか、考えていきたいと思った。元気が出ました。
- ・人が育つ職場づくり(育てる+育とうとする意欲を持つ)に取り組んでいきたい。
- ・改革や挑戦には抵抗が付きものですが、諦めずに進めていくと理解者も必ずいるので、疲弊する自分に負けず地道な挑戦を続けたいと改めて感じることができました。
- ・次世代育成まで見据えた仕組みづくりを常に意識した仕事ぶりとはこういうことなんだなあとしみじみわかりました。



保健師職能をめぐる看護協会の活動について

栃木県看護協会保健師職能委員長 金澤優子
(栃木県県南高等看護専門学院所属)

共生型社会の実現・地域包括ケアシステムの構築に向けた「看護職連携事業」から目が離せない

栃木県看護協会保健師職能委員会の活動につきましては、日頃からご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

また、この度は全国保健師長会栃木県支部のご厚意により、看護協会における保健師職能をめぐる活動について紹介させていただく機会を頂戴し、大変感謝しています。

最初に日本看護協会（以下、日看協と省略）の活動から保健師関連事業を中心にお伝えします。日看協は、4つの重点施策と11項目の重点事業を掲げ、各種事業を推進しています。そのうち、

- 重点政策 2 :地域包括ケアにおける看護提供体制の構築
- 重点事業 2-1 :地域包括ケアの実現を支える看護機能連携システムの構築
 - 地域における実効性のある看護職連携モデルの構築
- 2-4 :地域包括ケアを担う人材の確保
 - 保健師人材の確保のあり方の検討
 - 地域において複雑多重問題を抱えた人々への支援の強化

を保健師関連重点施策・重要事業としています。

「2-1 **看護職連携モデル**」事業は、都道府県看護協会の地区支部レベルでの取り組みをイメージし、保健所等行政保健師（統括保健師）が核となり、3職能はじめ多職種による連携体制の構築を図ります。「看護職連携モデル（案）」を作成し、年度内に試行的に実施することを目指しています。

また、「2-4 **複雑多重問題を抱えた人々への支援の強化**」事業として、従来の「保健指導ミーティング」を終了し、「**複雑多重問題事例の事例検討会**」を普及するとしています。この事例検討会は、キャリアラダーA4 レベルの獲得を想定した保健師の力量形成と、3職能はじめ多職種による連携体制の構築を狙います。

さらに、これら事業を推進するために組織間連携の鍵となる統括保健師に着目し、「地域全体の課題を俯瞰しつつ保健活動全体を『横串を指す』という役割意識の醸成を図りつつ、医療機関などの看護管理者への統括保健師の周知などを進めていくとしています。

このような状況を受けて、栃木県看護協会も重点事業のひとつに「地域包括ケアシステムの構築」を位置づけ、「地域における看護職のネットワーク強化」と「地域包括ケア推進に対応する保健師の人材育成と確保」を活動目標とし、「看看連携」を合い言葉に地区支部活動と連動した会議、研修会を実施しています。身近な地域で在宅医療や精神、母子などの課題をテーマとした会議や研修会が企画されています。そのような機会を活用し、看護職間連携を強化して頂きたいと考えます。

最後に、栃木県看護協会保健師職能委員会は、保健師の力量形成と顔の見える関係づくりの場として「保健指導ミーティング」を実施します。また、看護職間連携事業として、行政、産業分野等の保健師団体とのネットワークづくりを進めています。

今後とも、当委員会活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

ご案内

効果的な保健指導を行うための保健指導ミーティングの開催
日時 令和元年 12月 14日（土）10:00～16:00
場所 自治医科大学 地域医療情報研修センター
※詳しくは、案内通知をご覧ください。

全国保健師長会 北関東・甲信越ブロック研修会について

生井 明美（下野市役所）

- *日 時 : 令和元年8月31日(土)
10:00~15:30
- *会 場 : 茨城県立健康プラザ
- *出席者 : 151名



今年度の全国保健師長会北関東・甲信越ブロック研修会は、水戸市で開催され、栃木県支部からは17名（県4名 市町13名 会員11名 非会員6名）が参加しました。

研究班報告では、「災害時の保健師活動推進マニュアルの作成」事業報告として、大阪市健康局健康推進部保健主幹 松本珠美氏より、来るべき災害に備え①災害時の組織体制の構築②保健所と市町村の役割の明確化③受援計画の立案④体系的な災害訓練の実施⑤関係機関との関係性の強化と災害に強いまちづくりの準備が必要であるとの説明がありました。各自治体における災害時の保健師活動の準備は様々ですが、今後具体的に自分たちが取り組むべきことが確認できた内容でした。

保健師活動実践報告は、①本県から「小山市における若年妊婦支援（「ミニママクラス」事業の取り組みについて）小山市保健福祉部健康増進課保健師 三宅 志穂氏②「茨城県職保健師の経験年数によるキャリアラダー専門能力の特徴～中堅期における保健師の実践活動への自信に及ぶ要因について～」③長野県から「糖尿病重症化予防を確実に進めるために～個別訪問保健指導の力量形成のための取組経過報告～」④新潟県から「災害時における難病患者避難行動支援体制の構築に向けた取り組みについて」の4報告がありました。すべての実践報告は、私たち保健師が日々の業務の中で課題として直面していることであり、課題解決に向けた丁寧な取り組みが次へのステップに繋がる内容でした。小山市の取り組みについては、栃木県保健師活動レポート集平成30年度P43～45にも掲載されておりますのでご覧ください。なお、次年度の開催地は、新潟県となります。

インフォメーション ～第2回研修会～

- 日時：令和2年1月18日(土) 9:30～11:30
- 場所：とちぎ健康の森 小会議室
- 内容：「国の動向と統括保健師のあり方について」
厚生労働省 保健指導室長 加藤 典子氏

※非会員の皆様のご参加もお待ちしております。
(詳細につきましては、別途通知いたします)

